

かわさき市民アカデミーの後期の講座申込の説明会がありました。説明している方は、8年前から受講しているTさんです。Tさんは、60歳で退職し、これから何をしようかと悩み、考えたそうです。自分の中で「仕事はやり終えた。違う何かをしたい」と思った時に、川崎市の市民プラザで開かれている講座のチラシが目にとまったというのです。それから8年、さまざまな講座を自分の思うままに受講しているうちに、いつの間にか市民アカデミーの理事としてボランティアで他の人に講座の説明をする係となってしまいました。Tさんの8年間の学びの過程を見ると、「生涯学習」とは、単に自分のために学ぶのではなく、自分で学んだことを他者に役立てる力をつけていくことなのだと思います。

振り返って、私自身の生き方を考えてみますと、なんだか、自分の残された人生の中でやりたいことが中途半端になっているような気がしてきます。「仕事をやり終えた」という感覚も、「自分のやりたいこと」という思いも、なんだかグラグラしています。自分が迷っているので、いろいろな本を読みます。見方によっては、これも生涯学習なのだと思うのですが……。

最近、鎌田實さんの「遊行を生きる」という本に出会いました。この本は、こんな言葉から書き出されています。「人生はおもしろいはずなのに、生きるのは難しい。どうしたら人生を生きるのが楽しくなるのか、考えてきました。僕は今、68歳。ある壁にぶつかっています。外から見ると、屈託なく、自由に生きているように見えるかもしれませんが、でも、迷っています。悩んでいます。」

Tさんも68歳、鎌田さんも68歳。私は、もう少し若いのですが同じような悩みを持っています。この本のタイトルになっている「遊行」とは、古代インドのバラモン教やヒンズー教の法典に出てくる言葉であり、死ぬための準備をする時期と言う説があるそうです。でも、鎌田さんは、「遊行期」とは決して人生の締めくくりをする時期のようなものではなく、「しがらみから離れて自由になり、自分自身が一番正しいと思うことを語り行動する時期」だということです。

Tさんのように、自分で学びたいことを自分の責任で自由に選択する。そういう生き方が、健康で長生きをして、社会に貢献できる秘訣なのだと思います。私も、人生の後半戦に入ります。人生の集大成の「遊行期」をそろそろ自由な心で、楽しみながら過ごしたいと考えています。(M. Y)

「遊行を生きる」－鎌田實著 清流出版
